

はっん (Z A I H O O 代表)
かく語りき

「ブリーダーに 学ぼう」



フレンチブルドッグと
「ブリーダー」



ブリーダーと フレンチブルドッグ

Z A I H O O をはじめて8年目。僕はブリーダーさんとお客様と子犬をつなげる仕事をしている。その数300頭以上。そしてそのすべてがフレンチブルドッグだ。フレンチブルドッグ専門店だからフレンチブルドッグしか扱わない。僕自身もフレンチブルドッグ6頭と暮らしていて、ブリーダーインゴ(繁殖)もするし、ドッグシヨールにもチャレンジする。だから、僕にとってブリーダーさんの存在はいつもそばにある。

そもそも、ブリーダーさん ってどんなことしてるの？

ブリーダーさんの出産や子育て方法は、人それぞれ細かく違います。ここでは僕自身の経験と、お付き合いのあるブリーダーさんから、平均的な出産と子育てについて書いてみます。

まず、メス犬にヒート(生理)がくるところから始まります。ヒートがきたら交配相手のオスの所有者さんに連絡をとり、大まかな交配日を決めます。もちろん交配の約束は、余裕をもって早めに予約しておいたほうが良いです。交配日は一般

的に動物病院でスミア検査などを行い、日程を決めていきます。平均としては、ヒートが来た日から12日と14日、13日と15日くらいの2回交配が基本です。父犬が外交配(他犬舎など)の場合の交配料の平均は、チャンピオン犬で10万円〜15万円くらいだと思います。もしその交配で妊娠しなかった場合も、責任交配として次回まで交配の約束をするのが一般的です。無事、妊娠していた場合は、交配日から63日前後が出産予定日になります。

出産までの母犬のケアとしては、フードをパピー用に切り替え、フードの量を増やします。それまでが1日2回としたら、同じ量を1回増やして3回にします。このとき気をつけたいのが、2回のまま1回の量を増やすと下痢になることがあります。下痢をするとう母犬の母乳の質が悪くなり、ますます、気をつけるポイントです。パピーフードが合わない、量を増やして下痢をした、などの場合はすぐ元に戻します。この時期の散歩は、行きがたがる子と嫌がる子と、個体差で判断すればいいと思います。出産日が近づいたら、予定日の7日前から朝、晩と体温を計り記録します。予定日の3日前からは朝、昼、晩と体温

を計り記録します。散歩や排便のあとは体温が変わるので、体温を計るときは母犬の状態が安定しているときにします。出産が近づくと体温が平常時より1度くらい下がります。目安的にそこから24時間以内に産まれます。フレンチブルドッグは帝王切開での出産になるので、体温が下がった時点で病院に連絡して、先生に診察時間を相談します。この時の母犬の行動としては、元気がなく不安そうになる、ご飯を食べない、巣作り行動をするなどがあります。帝王切開での出産費用は病院によって違いますが、平均して5万円〜8万円くらいかと思えます。

無事出産が終わり、お家に戻りましたら、母犬は麻酔で意識がもうろうとしているので、少し休ませてあげてから子犬を母乳につけます。子犬を母乳につけるときの母犬が母犬に漬されないように、逃げ場のあるお産スペースを前もって準備しておきます。

また、初産で、自分が産んだ意識がなかったり、もともと気性の荒い母犬は、産まれた子犬を噛んで殺してしまうことも稀にあります。ですので子犬をはじめ母乳につける際は、子犬をつける前に母犬

の顔に子犬のオシリを持っていき、匂いがかがせたり舐めさせたりして自分が産んだことを認識させながら、1頭ずつ母乳につけるほうが安全だと思います。

子犬の生まれたときの体重の目安としては250g〜300gならば安心できますので、帰宅後6時間くらいして母犬につけるくらいで大丈夫でしょう。250g以下でしたら、帰宅後3時間くらいして母犬につけたいところです。

出産後24時間の母乳を初乳といいますが、初乳を飲むことにより病気に対する免疫力をもらうことができます。この抗体によって、子犬は細菌感染などによる病気から身を守ることが出来ますので、初乳は必ず飲ませるようにします。もし母乳が出ない場合は、哺乳瓶やシリンジで人口哺乳します。ただその場合も、母乳が出るようになるまで子犬には吸わせ続けます。あきらめてやめてしまうと母乳が出なくなり、すべて人口哺乳でやらなくてはならないので、初乳のことも含めこの時点が大切です。人口哺乳の場合は、母乳が出るようになるまで2時間半〜3時間に1回のペースで哺乳することにようになります。

子犬の生まれたときの体重の目安としては250g〜300gならば安心できますので、帰宅後6時間くらいして母犬につけるくらいで大丈夫でしょう。250g以下でしたら、帰宅後3時間くらいして母犬につけたいところです。



子犬の体重は毎日、朝、昼、晩とチェックして、体重に差が出来るようなら母乳の多く出ている位置にチェンジさせ調整します。子犬は生まれて10日目で500gが目安になります。子犬の排泄のケアとして、母犬が子犬の肛門や陰部を舐めているかチェックします。舐めていないようなら朝、昼、晩とマメに濡れたティッシュなどで子犬の肛門や陰部をついて人工的に排泄させます。便が固まり排泄できなくなっている場合もあるので気をつけます。

生後3週間くらいから離乳期になり、ふやかしたパピーフードなどを1日4回くらいのペースで与えます。最初は食べ方もわからないので、ドロドロ口にくわがしたフードを口元に持たせていき、舐めさせて覚えさせます。離乳食1日目は1回からはじめて、徐々に回数を増やしていきます。子犬の歯は1ヶ月くらいから生えるので、母犬が痛くて母乳を嫌がりはじめます。なので生後1ヶ月の時点では離乳食を食べられるようにしておきます。パピーフードを3時間くらいぬるま湯でふやかして、指で潰して芯が残らない程度まで柔らかくします。離乳食の食べが悪い時は粉ミルクをかけるように食べさせてくれます。生後1ヶ月くら

いは、平らな血にフードを入れば子犬が自分で食べるようになる頃です。生後40〜45日くらいになると耳も立ってきたりするので、写真を撮ったりして子犬のオーナーさんを募集したりする頃です。生後60日くらいに1回目のワクチンを打ち、お引き渡しの準備を整え、選んでくれたオーナーさん宅へと巣立つてゆきます。

ここまでは、子犬が産まれてからお客様のところに迎えていただくまでのざっくりとした流れです。実際にはもっと細かいケアや、ブリーダーさんそれぞれのオリジナルケアなど色々ありますし、子育ての大変さは、その時々で落差がかなりあるものです。

ブリーダーとスタンダード

20年以上、犬一筋で生きてきたベテランブリーダーさん。定年後に興味ではじめたドッグショーからハマりだしたご夫婦のブリーダーさん。世界に通用するフレンチブルドッグを作りたいことを目標に、一匹狼でストイックなブリーダーさん。繁殖を突き詰めるために、繁殖学の先生とタッグを組む血液マニアなブリーダーさん。とにかく環境が一番、犬質の良さは当たり前で、何よりフレンチら

しい人懐っこい性格を作ることにはこだわっているブリーダーさん。さらに、ヨーロッパタイプにこだわると、アメリカンタイプにこだわる、その中でも血液にこだわる、カラーにこだわる、などなど。一口にフレンチブルドッグのブリーダーと言っても、それぞれの背景、スタイル、考え方でとにかく様々です。

ただ、そんな様々なブリーダーさんたちにも共通していることがひとつあります。質の高いブリーダーさんなら必ず共通していること。それは、ブリーディングの目指すところが「スタンダード」ということです。スタンダードとは、簡単に言ったらその犬種の「基準」。基準はJKC（ジャパケンネルクラブ）が定めるもので、いくつもの細かい項目から、フレンチブルドッグはこうあるべき、と示しています。質の高いブリーダーさんというのは、共通してそのスタンダードを目指して計画的に繁殖をしています。そしてその中に、ブリーダーさんは自分の犬舎の「顔（タイプ）」をプラスしていきます。苦勞して作られた犬舎の顔をライオンブリード（親子兄弟以外の近い血管（一般的に3〜5代祖）に同一個体が見られる繁殖方法のこと）しながら守り、さらなる向上を目指していきます。

ブリーダーとZAIHOO

自画自賛というか、僕がやっているから当たり前なことなんですけど、ZAIHOOの子犬との出会いの形が一番健全だと思っただけです。全国のショーブリーダーさんの情報から選べるのはもちろんですし、掲載されている子犬はすべて見学が可能なわけです。気になった子犬がいたら、お客様に見学に行ってもらい実際に子犬と

そんなブリーダーさんは積極的にドッグショーに参加して、そこで評価されることを誇りにしています。勘違いしてほしくないのは、ドッグショーに出ることが正しいとか、チャンピオン犬が偉いとか、そういうことではないんです。ただ、犬種にはそれぞれの歴史があります。フレンチブルドッグにしても、先人たちがブルドッグ、ポストンテリア、バグなどの異種交配を繰り返して時間をかけ作り出した犬種なわけですね。フレンチブルドッグブリーダーを生業とするのなら、そんなフレンチブルドッグを作り出した先人たちの努力を受け継ぎ、自分たちの後世の人たちにも「フレンチブルドッグの正しい魅力」を伝えることが義務でもあるのです。

実際に子犬は、迎え入れてからが大変なことや、わからないことがたくさん出てくるものなんです。そんなときに、育てたブリーダーさんに直接相談できる安心感というのは非常に大きいものです。ZAIHOOで紹介しているブリーダーさんたちはベテランブリーダーさんが多いので、たとえば子犬の体調に気になることがあったとして、動物病院にいかうか迷うような時は、まずブリーダーさんにお電話して様子を伝えていただき、その状況についての最善の方法をアドバイスいただけるわけです。

子犬探しをするときって、可愛い子を探したい、自分のタイプを見つけた、ということだけに必死になってしまうものです。それは僕自身も経験があるので十分わかります。でも、

子犬は迎え入れてからが本番なわけです。

質の高いブリーダーさんで生まれた良質な子犬の中からお気に入りの子を選び、子犬はもちろん、兄弟や親犬も実際に見学して触れ合い、ブリーダーさんとも付き合い合っていく。これがベストでしょう。お客様もブリーダーさんと親戚付き合いみたいにならない方もたくさんいます。ブリーダーさんにとっても、苦勞して育てた子の成長をずっと見られるわけですから、やはりベストなんです。これこそ子犬との出会いの一番健全な形だと思っただけです。だってこれ、ペットショップさんじゃ出来ないでしょ？

はつん

フレンチブルドッグ専門サイト「ZAIHOO（ザイホー）」代表首までどっぷりフレンチブルドッグに浸かった38歳。現在は6プロに囲まれながらフレンチライフの高みを目指す。ワイルドというよりはマイルドなタイプ。

